

第 30 回石狩川上流川づくり懇談会

○日時：令和 6 年 11 月 12 日(火) 13:30~16:30

○出席者

委員：白井座長

石田委員、泉谷委員、小島委員、佐々木委員、塩田委員、寺島委員（五十音順）

（欠席：加納委員、武田委員）

○議事概要

1. 開会

2. 議題

- 1) 河畔林の連続性について
- 2) 河川生物の保全について
- 3) フットパスの整備について
- 4) 施設やサインのデザインについて
- 5) その他

3. 閉会

○石狩川上流川づくり懇談会の開催状況写真



白井座長



石田委員



泉谷委員



小島委員



佐々木委員



塩田委員



寺島委員

○第 30 回議事要旨

主な意見
1. 河畔林の連続性について
1-1.ハリエンジュ林抑制試験 牛朱別川萌芽枝複数刈取り試験について
・試験場所の冠水状況はどうなっていたのか。 ⇒事務局:試験場所は低水路内なので冠水する場所ではあるが、近年は冠水していないと思われる。
1-2.重要インフラ緊急対策樹木伐採後のモニタリングについて
・令和元年に樹木伐採したけれども、数年後にはまた生えてきており、6 年も経つとすごく生長してしまう。定期的に伐採が必要になる。
2.河川生物の保全について
2-1.ミクリポイント-生育環境改善に向けた取組みについて
・ミクリの生育数が順調に増えており良いと思う。 ・ミクリの管理は、毎年現地状況を確認しながら考えた方が良い。
2-2.R5 年度サケ・サクラマス産卵床調査について
・一番関心があるのは、最近大きな流れとしてサケが増えているのか減っているのかがすぐ頭に浮かぶ。海の来遊数において R4 年は減っているけれども、石狩川上流の産卵床数は増えている。石狩川に遡上するサケの数は少しずつ増えているようである。 ・石狩川のサケの遡上数は、大きな意味で沿岸に来ているサケと同調している。一方で極端に少なかった 2016 年の数は、4 年前の数が多かった産卵床数から推定すると異なった傾向となっていた。これは単なる放流魚だけの推移ではなく、野生のサケが随分関与しており、したたかに生き残っていた支川等の野生魚が放流魚に影響を与えているという報告が最近されるようになってきている。 ・過年度からの産卵床数のカウント方法は、ずっと変わっていないと思うが、サケの産卵は 1 か所ですべてを産むのではなくて 3 か所から 4 か所、多いときには 5 か所ぐらいに分散して産み、産み終わるとすべてを砂利でカバーする。カバーされてしまうと何回分散して産んだのかがカウントしにくい、どのようにカウントしているか。 ⇒事務局:確認する。 ・石狩川上流ではサケの産卵場が大きく決まっているように見えるけれども、河道の状況によって随分違う。石狩川上流の産卵場としては、湧水場所が少なく伏流水に頼っている部分が非常に多い。川の蛇行によって水位に高低差ができることで伏流水ができ、産卵床ができる。かつて産卵していた場所も伏流水がなくなると産卵しなくなる。できるだけ川の中で蛇行が起こるような川づくりをしてもらいたい。 ・石狩川のような大河川に野生のサケが遡上してくるのは、全国的に見ても非常に珍しい。それだけまだサケが産卵できる環境があるということなので、大事にしてもらいたい。そのためにも調査が非常に重要な資料になるので、ぜひ今後も継続していただきたい。
3.フットパスの整備について
3-1. パンフレット・ポスター・のぼりの検討
・パンフレットの用紙は、耐水でなく普通紙で良いと思う。 ・パンフレットの裏に記載するクレジットは石狩川上流川づくり懇談会とさせていただくが良いか。 ⇒委員:了承
・最近、旭川市内を見ていると外国人観光客が増えている。外国人観光客がどれほどフットパスに興味か

あるかは分からないが、少なくとも常磐公園などにも来ている。これからさらに外国人観光客が増えると考え、コストはかかるが少なくとも英語表記のマップ、パンフレット、チラシなどを用意しておいた方がよいと思う。

3-2.フットパスの利用推進に向けた検討について

- ・今年度は旭川歩こう会、旭川サイクリング協会、食べマルシェなどと連携してフットパスがPRされたので、大変ありがたい。これからも継続してやって頂きたい。
- ・パンフレットやポスター等ができた段階では、どういう形で配布、展示する計画なのか。
⇒事務局: 今後、配布方法や展示場所を考えていく予定である。
- ・パンフレットはとても良い出来なので完成していると思う。パンフレットを何カ所に置いても、実物に巡り会わなければ手に入る機会がない。そこで今回ポスターにはQRコードを入れてあるので、学校等の教育機関にも広く掲示してもよいと思う。次のステップとしては、どうPRしていくかが重要と思う。
- ・しっかりとしたコースマップも出来上がってきたので、例えば観光コンベンション協会などに置いてもらうとよいと思う。ウォーキングイベントでは、視覚障害者、身体障害者、知的障害者の方たちにも声をかけて、フットパスコースについてアンケートを行うとよいと思う。
- ・旭川ではユニバーサルマースという事業に取り組まれている。この事業は、障害の方の情報を入力するとバスやタクシーなどの手配を一括で予約できるサービスである。例えば、バスであれば予約の時間にスロープのついたバスを運行するなどのサービスが考えられている。フットパスのPRとしてこの事業に相談することも出来るかと思う。
⇒事務局: 広くPRしていきたいと考えているので、今後相談させて頂く。

4.施設やサインのデザインについて

4-1.河川敷等の通路利用に関するアンケート調査について

●フットパスサインについて

- ・アンケート結果では、歩いている方々がきちんと標識を見ており、さらに黄色い柱頭の番号でどこまで歩いているのかなどに標識が活用されている。うれしい驚きである。

●マナー啓発チラシについて

- ・マナーの啓発チラシの文字の囲みの色が、アンケートの中で見づらいという意見があったが、どのくらいの方が言っているのか。
⇒事務局: アンケート全510件の回答中で緑の吹き出しが読みにくいとの意見は数件であった。
- ・色覚として見づらい人も実際にいらっしゃると思うが、少数派の人たちの意見にどのように対応していくかというのは難しいと思う。今後、他のことにも響いてくる問題かとも思う。提案された3つデザインの中で選ぶとすると、③案(歩行者の吹き出し色:黄色)が良い気がする。
- ・啓発チラシ現行案の薄い緑の白抜きは、私も見にくいという気が正直する。色とかデザイン的には良いかもしれないですけども、できればはっきり読めた方がよい。③案(歩行者の吹き出し色:黄色)は非常に見やすい。
- ・③案(歩行者の吹き出し色:黄色)が良いと思う。

●マナー啓発看板について

- ・マナーの啓発看板は、今は取りあえず製作しないで、パンフレットで啓発活動を優先させることに賛成である。

4-2.樹名板設置に向けた検討について

- ・樹名板を実際に見る人は、まず知りたいのは木の名前で、さらに葉っぱや果実などに興味がある人は、さらに近づいて説明文を読むと思う。C-2 案(葉と果実や花などのイラストを記載)の方が詳しく情報があり良いと思う。
- ・C-2 案(葉と果実や花などのイラストを記載)の方が関心を持ってもらえそうである。イラストが葉っぱだけでは、あまり注目されないと思うが、もう1つイラストが書いてあると見てもらえるのではないかと思う。
- ・C-2 案(葉と果実や花などのイラストを記載)の方が、かわいらしくて、子供受けするかと思う。